



ベトナムのバリアフリー事情

江戸川区立松江第五中学校 3年 瀬川大地

私は今回のベトナム研修で、「発展途上国」と呼ばれる国に初めて訪れた。車いす利用者である私が、バリアフリー環境が整備されていない途上国で移動するには、様々な問題が生じることが想定されたため、訪問を躊躇していたからだ。今回は、幸いにも出発前、JICAの方と入念な打ち合わせをさせていただき、なんとか参加が実現した。そして、訪れてみると、やはりバリアフリー環境の欠如は痛感せざるを得なかった。市内はインフラが整っておらず、バイクがひっきりなしに道路や歩道を通り、路肩にも無造作に停められていた。これでは街中を車いすで移動することも困難を強いられる。このような状況で、日本から車いすを送ったとしても、障がい児がそれに乗って街中を不自由なく移動することは難しいだろう。道路の舗装やエレベーターの整備など、一体的な都市計画の実施は不可欠だと感じた。しかし、ベトナムの人々は、非常に優しく相手への思いやりがある。街中で助けをもらう場面も多々あった。もし、環境が整っていない状況に置かれても、人と人が助け合えばどうにか乗り越えることができる。バリアフリー化の一番の近道は、やはり人の心を変えていくことなのだと思えて実感した。